

## 導入

### 自己紹介

#### 本スクーリングの流れ

本スクーリングは、グループワークがまったく分からない、学んだことがない人のために行う。受講生の皆さんの中には、テキストを読んできている人も中にはいるかもしれない。あるいは、グループワークを日常的に使っている方もいるかもしれない。とはいえ、学校側から初学者のためにと依頼があり、中には基本的すぎてと思う方もいるかもしれないが、その点をご容赦。

また、中にはレポートをすでに提出している方もいるかもしれないが、今後グループワークのレポート提出をしようかと思っている方が大半だと思います(まだレポートを出していない方に手を挙げてもらう)。よって、レポート課題集に挙げている2課題は、基本としてまとめてほしい事ですので、このことを軸にして講義をしていく。

#### 資料の説明

予め資料を提示しながら時折板書をしながら話を進めていく。

教材に使用する論文は、グループワークの展開過程において主に使用しようかと思う。この論文は、前田ケイ先生が、グループワークの実際を克明に記述している。保護観察女子を対象にした小さい取り組みです。グループワークの実際としては1980年代と古いが、実によく練られている。本スクーリングでは、この論文を読みながら、グループワークの実際について少人数で読み合ったり確認したりして追体験をしてもらう。そして、読むことを通して、現実を読み解くこと的手法として、論文とは何かを簡単でも良いので感じて欲しいと思う。レジメで言うところの展開過程で使用する。

また、論文に先立って、長時間ということもあり、皆さんの負担にならない程度の皆さん同士での簡単なコミュニケーション方法の演習を行う。セッションというと、緊張したりすることもあるかと思うが、現在福祉職～援助者として働いている方もいるかと思うし、今後、福祉職に就こうと思っている方が多いかと思う。その場合、福祉の仕事は全く知らない人とコミュニケーションを取ることが求められている事を考えれば、積極的に相互交流を図っていただきたい。

最後に余裕があれば、論文の収集方法、良いレポートとは何か。引用の仕方など、添削者からの視点などを話せればと思う。(レジメの資料の説明) 以下、本題に入る

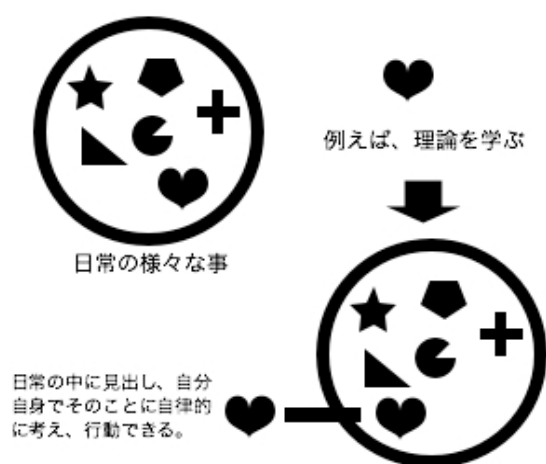
### 1. 理論を学ぶという事

皆さんの多くは働きながら、場合によっては社会福祉の業種にあって大学で学ばれていると思う。中には、福祉の業種には就いていないけど、身内が病気とか障害になってそれを期に興味を持ったという言う人もいるかと思う。いずれにしろ、福祉に興味がある、あるいはもっと学びたいという動機がある事は共通していると思う。

なぜ学ぶのか。よく理論と実践は違うとか、理論は現実や実際には役に立たないという言葉聞く。しかし、理論はそれを学んで解釈し、使用すること。理論それ自体は日常に適用される道具として使用することで始めて意味を持つ。そして、日常は一つの理論では説明できないが、多様な物を身体化していくことで活かされる。普通の人は、何となく集団の中で生活しているが、グループワークという小集団理論を学ぶことで、自分の身の回りにある集団がある意図を持って自分自身の中で解釈

され意味が違ってくる。そのことで、集団の力学に対し意識化され、自己の行動に自律性や主体性が生まれていく。

わざわざ大学で学び、たくさんのレポートを書き、書くために教科書を読み、場合によっては指定されている参考図書以外の書籍も読みながら苦労する。それはどうしてか。日常の中にある様々なことに光を一点当て、明らかにする。そして自分なりに再構成すること。正解はほとんど無いが、自分の中で一つ一つ納得できる言葉を見つけること。そのためにはさまざまな意見や言葉を自分の中で吟味すること。また、自分にとって都合の良い情報だけではなく、様々な批判なども判断材料に加えて、安易な結論を得ない。総合的な判断、多様な意見を身にしみこませて、自分なりの言葉を持つ。  
メディアリテラシー／バイアス



日常には様々な事がある。私の仕事が知的障害児を対象にしているが、業務には障害者自立支援法、児童の心理状態、発達状況、就労のシステム、社会的な文脈(虐待・養育放棄)または障害への知識などが絡み合っている。それは医療的な知識、社会学・心理学である。もし、全く何も学ばず働きかけがないまま働いていけば、こうした多様な物事に気づかず、与えられた業務をこなすだけになってしまう。しかし、例えば、その中でも障害者自立支援の法体系や形成された理由を学べば、今ある業務の理由を法の視点で自分なりに解釈する事が出来るようになり、自分のやっている行いを理由付ける事が出来る。

何が言いたいかという、日常には様々な切り口があって、それぞれが学んできた方法で日常に関わっているという事である。そして、その切り口を深く学ぶ事で、自分なりの意見や言葉を身につけ、現実に応用していくことが勉強を深める事である。専門とは、素人(その知識がない人)では気がつかないことに気づくこと。気づいたことで対処できること。学ぶこと→その事が分かること。

大学で学ぶこととは、専門を学ぶことの基礎作りではないか。これは大学から大学院、その後の研究までずっと指導してくれている、社会福祉原論で教えている田中治和先生の影響もあるかと思うが、そう思う。つまりこれまでの積み上げられている理論の前提を大切に、枠組みを学ぶこと。そして、そこから自分の身の回りにある現実を自分なりに読み解き、自律的に生きるすべを身につける始まりなのではないかと思う。そして、大学で学んだことを周りに伝えていく。これも学んでいる人の役割だと思う。余談だが…**反省的实践家／技術的熟練家／発展的業務**について→一人一人に新たな事象を開くこと

話が長くなって申し訳ないが、私は空手をやっていたときに練習のはじめに必ず復唱する**空手道十訓**というものがあった。その中で、

- 1.型は故人の血の結晶である。一切改良するべからず。
- 2.型を学び、型より出でて、自在を得るべし。というのがあった。

これは、型とはそれまで積み上げられてきた思想があり、誤った解釈とかを施してはいけない。そこにある思想に導き出された動作の一つ一つを反復し、体にしみこませる事。それがその世界での適した動きであり、それに叶った動きをする事がその世界でうまいという事である。そして、型を身につけたならば、相手があつての空手であるから、臨機応変に対応しなさい。そして、型を通じて、自

分自身の表現をしなさいと。

これは、福祉という学問でも同様である。福祉での共通認識や前提を身につける事。間違わずに解釈し、深める事。反復して考える事。それが叶った動きにつながる事になるかと思う。大学とは、そうした型を学ぶことではないだろうか

話が長くなったが、次に本題のグループワークについて述べていく。

## 2.グループワークというフィルターを作るという事

グループワークは別名、集団援助技術(時には小集団理論とも言う)ともいうように、集団を使った援助技術である。本スクーリングで私が皆さんにお伝えすることが出来るとすれば、このグループワークの講義を終えたとき、皆さんの身の回りにある現実をグループワークのシステムが存在することに気づくこと。あるいは、やっていることがグループワークとして成立できること。または、ちょっと気をつけるとグループワーク的な活動になることに気づいて欲しいと思う。

グループワークは直接援助技術～社会福祉分野の技法である。そして、グループという事で、集団を扱います。言い直しますと、集団を活用した技法です。よって、グループワークの学問領域は、集団を「どう見るのか」。そして、どのような意図で「社会へアプローチしているのかを学ぶ」と言える。いずれにしても、今回のスクーリングを学び終わる頃には、身の回りにある集団や活動をグループワーク的な視点で見ることが出来るように、その入門編という事で学んでいきたいと思えます。

その前に、グループワークを巡るいくつかの誤解について。

### 1.グループ活動を社会福祉現場で行えばグループワークだということ。

これは、よく施設などで日常的なレクリエーションや作業などが行われていますが、それがしっかりと計画されていない場合、あるいは、その活動を通して何か生活の課題などを解決したり軽減するなどの意図があまりないものはグループワークとは言えません。ディサービスなどで風船送りゲームをしたりしますが、それだけではグループワークにはならない。

グループワークには、ある一定の期間がある事。計画や課題が明確であり、その課題達成のためにプログラム活動を組み込む事。評価などを通してその活動がどうだったのかを総括することが最低条件となります。では、どういうのがグループワークなのかについては、展開過程のところでお話しいたします。

### 2.何かのワークショップで作品などをグループ作業で行う事がグループワークだということ。

上記と同じような意味合いがありますが、グループワークそのものが、専門的な技術であるという認識に欠けやすく、レクリエーション場面でのグループ活動やグループディスカッション、グループワークによる症例研究など、複数の人間が集まって取り組むグループ活動の一形態として理解されている場合が多い。さらに業務の効率性を上げることとの関連で、援助の対象となる人々の個別事情に配慮を加えず、一括大量処理に利便をもたらす方法としてグループワークを活用しようとする捉え方すらみられる。

戦後の民主主義思想の社会教育的な意味合いで導入されたグループワークであるが、しばしば上からの押しつけ的なものとして行われて来たとし、結果的に単なる知識の提供の域を脱することは無かったという学説上の反省点もあります。

### 3.教育分野や中には情報分野でもグループワークの研究が行われており、多義である事。

2と少しかぶりますが、多様な分野でグループワークの手法が使用されています。あとで、グループワークの分類でもお話ししますが、一口にグループワークといっても現在、援助者と社会福祉利用

者という関係にとどまらず、会議の持ち方や集団教育における学生の効果などにも使用されております。それがグループワークではないというわけではないのですが、スクーリングで取り上げるグループワークとは、ソーシャルグループワークという観点～社会福祉援助技術として取り上げる事を予め規定しておきます。

では、次に、グループワークの概略について話していく。